

● 占領期の中曽根と米軍＝中曽根元帥・伊藤誠・佐藤三郎『天地有情 50 年の戦後政治を語る』文藝春秋、1996 年、160 頁によると、1953 年夏ハーバード大学の夏期国際セミナー（講師がキンソンジャー）に際したのは米軍 CIC のコールドソン Kenneth E. Colton であった。ところが CIC の監視記録・人物評価である「中曽根ファイル」には、コールドソンの名は出てこない、コールドソンは CIC では J・カイリツマスの下で国会担当であった。『経済界』52 年 4 月に「日本の指導者」を特別寄稿し、翌 5 月号で中曽根と「占領政策の功罪」を対戦、55 年 8 月号で「日本の保守党はどこへゆく」を分析的に論じたレイラント大卒図書館員のコールドソン文庫は未見。WIS「中曽根ファイル」はコールドソンが政治学者に転じた後の担当の報告と考えられる。

Kenneth E. Colton (1913-1995) was a scholar of modern Japanese politics, whose interest in Japan began during his service for General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers (GHQ SCAP) during the Occupation of Japan, 1946-1952. In January 1946, he began work in G-2, Research and Analysis Section of the Civil Intelligence Section (CIS), researching Japanese political parties. He later joined the Civil Historical Section. His tenure with GHQ SCAP ended in 1952 when the Occupation of Japan came to a close, but his interest in Japanese politics continued. He taught at Sophia University, the International Christian University (ICU), American University and Kent State University. The Papers of Kenneth E. Colton are comprised primarily of materials related to his work in Japan during the Occupation on Japanese political parties and figures, the Diet and elections.

Access: This collection is available for use in the Prange Collection. For more information, contact the Prange Collection at prangebunko [at] umd.edu.

The Gordon W. Prange Collection



Justin Williams, Sr. papers, 1945-1952 - Williams, Justin.
Call Number: JQ1611 .W56 1992
Charles L. Kades papers : [microform], relating to the writing of the Japanese Constitution
(1947). - Kades, Charles L.
Call Number: D802.J3 K33 1946

原子力と日本人

新大 原 政 策 は 推 し 進 め る
事 業 難 は 故 事 万
を

「原子力」は、人類の歴史の中で、最も重要な役割を果たしている。原子力は、人類の生活に不可欠なエネルギーであり、人類の未来を決定する鍵となる。原子力は、人類の生活に不可欠なエネルギーであり、人類の未来を決定する鍵となる。原子力は、人類の生活に不可欠なエネルギーであり、人類の未来を決定する鍵となる。



歴 政 復
史 治 興
の 家 に 國
は 結 民
た せ 力

「原子力」は、人類の歴史の中で、最も重要な役割を果たしている。原子力は、人類の生活に不可欠なエネルギーであり、人類の未来を決定する鍵となる。原子力は、人類の生活に不可欠なエネルギーであり、人類の未来を決定する鍵となる。原子力は、人類の生活に不可欠なエネルギーであり、人類の未来を決定する鍵となる。

CIA Shortki File (有馬哲夫解説), Oga File (山本・加藤・吉田解説)と米軍MIS Nakasone File 参考文献

加藤哲郎『戦後米国の情報戦と60年代安保——ウイロースから岸信介まで』『年報 日本経済』第15号（現社説刊行版、2010）
同『米軍大佐の回想録』（平凡社新書、2005）、『信州戦と現代史』（花伝社、2007）
森本幹男『戦後のアメリカ』（生活選書111、2000、後に新編文庫）、山本武司『アメリカ・プロパガンダ』（岩波書店、2002）
T・ウィナー『CIA秘録』上下（文藝春秋、2008）、ヘンクス＝クレア『CIAの内幕』（P111P研究社、2010）
吉田直樹『戦時体制とCIA』（平凡社新書、2012）、田嶋正郎『日本の秘密』（文芸春秋、2011）
佐野俊一『自衛隊 正力松太郎と自衛隊たちの歴史』（文藝春秋、1991）『戦後と戦後』（文芸春秋、2011）
有馬哲夫『原政・正力・CIA』（新編新書、2008）『日本テレビとCIA』（新報社、2008）、同『CIAと戦後日本 保守合同・北方領土・四国返還』（平凡社新書、2010）、『原政と戦後—戦後の新編』（文芸春秋、2012）
山岡淳一郎『原政と戦後』（ちくま新書、2011）、柴田秀利『戦後マスメディア』（上下（中公文庫、1995）

中曽根康弘国会「原子力」発言録

066/066] 7・衆・予算委員会・7号 1950 (昭和25) 年02月03日

……先の東京出事

裁判によつてもわかりますように、文明というものが一切の原動力になつておる。東條は文明の敵であるとして、彼は死刑になつたのであります。それでありまして、文明を進展させるためにいろいろなことが行われておる。学問の研究も行われておる。あるいはその研究成果の利用も行われておる。この問題だけは日本人にも認めてもらいたい。具体的にいへば学問研究の自由であり、科学研究の自由であります。たとえば原子力という問題があります。湯川博士はサイクロトロンがなければアメリカへ行つて研究するよりしょうがない。しかしこの原子力という問題は、国内の医療の問題にしても、食糧の問題にしても利用できる問題である。こういうような科学研究、原子力研究の自由というものを平和日本にぜひ認めてもらいたい。

1954 (昭和29) 年01月29日

アメリカの国務長官ダレス氏は、かのサンフランシスコの平和条約締結に際して、この条約は和解と信頼の条約であると述べた。和解と信頼とはいかなることであるか。それは、お互いが過去を水に流し合つて、将来親睦、提携することでありまして、日本はカマの広島、長崎の原子爆撃の戦地ですら条約上水に流したではないか。(拍手) しかるに、何ゆえ今日八百人の戦犯がいまだに巣籠つてゐるおるのであるか。

1955 (昭和30) 年12月13日

○中曽根委員 原子力基本法案の提案理由を御説明申し上げます。

「原子力基本法案は自由民主党及び社会党の共同提案によるものでありまして、両党の議員の協同作業によつて、全議員の名前をもって閣内閣前に提出した次第であります。

最近、各国における原子力の利用促進というものは、きわめて日ごましい速度で進んでおります。特に電力用の原子力の利用につきましては、イギリス、フランス、アメリカ等において日ごましい進歩をいたしております。たとえば、すでに、イギリスにおいては、十一年計画で百五十万キロワットの電力を開発する、二十年計画で四千万トンの石炭を原子力で代用しようという雄大な計画を進めております。……アメリカにおいては、五年以内に二百五十万キロワットの原子力を開発するという計画を進めております。……各国の共通の特色は、この原子力というものを、全国家の発展において、超党派的政治的立場のもとに、政府の超党派に置いて、計画的に推進することに進んでいるということでありまして、どの国におきましても、原子力問題を決定する機関として独立自治機関としてこれを置いておきまして、政府の影響を受けられないような措置を講じております。たとえば、フランスにおきましては原子力委員会がある、イギリスにおきましても原子力委員会がある、アメリカにおいてもカネガタにおいてもそうでありまして、これらの機関はすべて超党派的な性格をもって組織して、閣内閣外が協力し得るような代表を兼ねておるのであります。

まず第一の基本を確立するというのが第一であります。日本には有能なる科学者があり、技術者があり、技術職がありまして、しかし、国家が確立されておらないようでは、有能なる学者はここに集まてきません。そこで、機構的にも予算的にも、国家が、行動の態勢をもって、何事にも協力のもとに、この政策を長期的に進めようという態勢を築くことが第一であります。これによって有能なる学者をこの方向に指向させることができるのであります。

第二点は、超党派性をもってこの政策を運用して、政府の超党派に置くということでありまして、国民の担当が、日本の原子力政策の推進を冷やかな目で見るといふことは悲しむべきことであり、絶対避けなければならないのであります。何事にも協力するもとに、超党派的にこの政策を進めるといふことが、日本の場合は特に重要であるのであります。

第三点は、長期的計画的性をもって、しかも日本の個性を生かしたやり方という考え方であります。原子力の問題は、各国においては、二十年計画、五十年計画をもって進めるのでありまして、わが国におきましても、二十年計画、五十年計画程度の雄大な構想を必要といたします。それと同時に、賢明な技術で資本力のない日本の国情に相当するような方法を講ずることが必要であります。たとえば、発電の場合にいたしましても、濃縮ウランを使ってやるやり方が妥当であるかどうか、わが国の資本力等から見れば、当然、天然ウランを使って、重水あるいは黒鉛を使ってやる発電方式というのがわが国情に相当であると、現在考えられております。濃縮ウランにあまりたよるといふことは、現在の東洋においては、東洋の原料等にすら外国の恩恵を得なければならぬということであつて、これは原子力研究あるいは原子動力の利用について自主性を失うおそれもあるのであります。こういう点につきましても、わが国の個性という点をわれわれは慎重に考える必要があります。

第四点は、原子力の一番中心の問題は金でもなければ機材でもない。一番中心の問題は、日本に存在する非常に有能なる学者に心から協力してもらうという態勢を作ることでありまして、具体的に申し上げます。湯川博士や朝永博士以下、日本の学界には三十前後の非常に優秀なる世界的な学者が居りました。これらの有能なる学者が、国家のために心から研究に精を出してもらうという態度を作ることが、政治家の一番重要なことであります。そのようなことは、学者の意見を十分取り入れて、この原子力の研究というものが、日本の一般の民衆に行われておらない。一般の民衆でもなければ、世界の民衆でもない、全日本国民の進歩を阻害するために国民的スケールにおいてこれを封じられておるという態勢を作ることが一番大事なことでありまして、このような点にわれわれは慎重その他についても十分配慮した次第であります。

第五点は、国際性を得るに資することでありまして、原子力の研究は、各国におきましてはみな協力的な協力のもとに行われております。……われわれは、アメリカと提携するのみならず、イギリスともフランスともノルウェーともインドとも、あらゆる国と善意をもって協力的に協力するという態勢を作る必要があるものであります。と同時に、アジアにおきましては、アジア民族としての特性もあるものでありまして、建設的な立場に立つて原子力の平和利用のためのアジア共同体という構想すらわれわれは持つていこうと思つております。具体的に、たとえば、資源がインドのトリウムをわれわれは輸入し、われわれの技術でインドと交換する、こういうような構想もぜひ打ち出されてこなければならぬ事項だと思つております。

第六点は、日本の原子力の問題というものは、広島、長崎の悲劇から出発いたしました。従つて、日本国民の間には、この悲しむべき原因から発して、原子力に対する非常なる疑念を持つておるものであります。このような国民の疑念を、われわれはぜひとも強く解くという努力をする必要があると思つております。広島、長崎の悲劇から発した国民が、原子力の平和利用や科学のいろいろな申し出に対して疑問を持つのは当然であります。従つて、政治家としては、これらの疑問をあくまで説明に解いて、ただすべきものはただして、国民の心からなる協力を得るという態勢が必要であります。しかし、すでに、外国においては、原子力はかつては猛獣でありましたけれども、今日は家畜になつておる。遺憾ながら日本国民はまだこれを猛獣だと理解しておる向きが多いのです。これを家畜であるということと、われわれの努力において十分啓蒙宣伝をいたし、国民的協力の基礎をつちかひたいと思つております。

次に、原子力基本法の内容を簡単に御説明申し上げます。

まず、第一條におきまして、目的を掲げてあります。この目的は「エネルギー資源を確保し、学術の進歩と産業の振興を図り、もつて人類社会の福祉と国民生活の水準向上に寄与する」ということであります。このことは、先ほど申し上げましたように、エネルギー資源の確保を主として外国は取り上げておる。日本は広島、長崎のエレジーとして今まで取り上げてきておつた。この国内の窮乏の憂と国外の果敢の憂、これを完全にマッチさせるということが、まず第一のわれわれの努力であります。広島、長崎のエレジーとして取り上げている間は、日本の原子力の進歩は望むことができません。外国と同じように、電力の問題として、産業の問題としてこれを雄々しく取り上げるように、われわれは原子力政策を推進したいと思つております。と同時に、建設的な学術の進歩、電力、車の製造、そのほか諸般の産業の振興をはかる、そして広くは世界全体の人類の福祉をはかるという御氣に、日本国民の生活水準の向上に寄与するという意図を感したのであります。

第二條は、基本方針をうたつてあります。その中心は平和目的に限るということでありまして、つまり軍事的利用は絶対禁止するということも明確にうたつたのであります。同時に、民間協力に資することとあります。民間協力に資することとをうたつた理由は、アメリカ、イギリス、フランスあるいは対外協力と協力しようとするいかなる国とも、協力が合はざるということでありまして、日本は現在の国際的地位に就いて以来非常に低いのであります。しかし、科学技術の振興は、中立性を保つておりやすから、そう外国との間に摩擦が生ずることはありません。われわれは中立的立場を回復し、日本の科学技術の水準を上げるということは、原子力や科学によつて可能であると思つております。日本が経済的に進出すればイギリスその他の国を刺激いたします。軍備によつて刺激するということは今日許されません。何で日本の国際的地位を上げるかといへば、中立性を持つておる科学技術に原子力によつて日本の水準を上げて、それによつて国際的にも正当なる地位を日本が得るよう努力する。そういう点からいたしましても、基本法を早期に提出して日本の態勢を整えることが、非常に重要な意味を持つと思つております。

[045/066] 32 - 衆 - 科学技術振興対策特別委 - 3号 1959 (昭和34) 年07月07日

○中曽根国務大臣 原子力基本法におきます平和という意味は、あの原子力基本法を提出いたしましたときに私は提案の趣旨説明をいたしました。そのときにも申し上げたのでありますが、核兵器に利用しない、核実験に利用しない、そういう意味であります。次に、憲法との関係であります。これは内閣大臣が閣議で答弁している通りであります。また、すでに内閣委員も当委員会において御答弁になったと記憶しておりますが、原子力基本法が現時のままである限りは、日本におきましては核実験することはできない、このようにわれわれは考えております。

Authority NNN 007020
By SK NARA Date 8-9-11

444

CONFIDENTIAL

Security Information

201-NAKASONE

Information Concerning Japanese Visitors to U.S.

G2, AFPE (Adv)

Scty Gp

4 Dec 53

12 Col Rutledge/lt/969-3502

Reference G2, DA letter and comment on visit to U.S. of NAKASONE Yasuhiro.
(Incl 1)

a. NAKASONE is a strong rearmament advocate but DA's feeling that he was "more interested in making political capital of his interviews with prominent U.S. officials than in the rearmament issue per se" is quite justified. On 2 Dec, NAKASONE entered into debates with the Prime Minister and the Director General of the NSA. In these debates he presumably was pushing rearmament, but the hottest point involved was NAKASONE's charge that the Japanese Government had been "reprimanded" by the U.S. for a lackadaisical attitude on defense. The Government pointed out that it represents a sovereign nation and therefore is not subject to "reprimands" from foreign countries. When the NSA Director General asked NAKASONE to withdraw his statement, he derisively refused, saying that he knew the truth from good U.S. sources. In the press, NAKASONE has been quoted as saying that the facts on defense are well understood by a person who has just been to the U.S. He obviously is attempting to capitalize politically on his trip to the U.S., and his remarks and attitude apparently are intended to imply that he has received information from U.S. defense officials.

b. Scty Gp is preparing a brief memo to attach to the DA letter for filing in NAKASONE's 201 file, and will orally report contents of the letter to the Embassy Political Division for such assistance as it may offer them in future contacts with NAKASONE.

1 Incl:

DA ltr and comment

CHAR D. BROCK, Col, Inf
Chief, Scty Gp 969-3411

Jm Br File G2 AVR/Lt

CONFIDENTIAL

Security Information

11N1985

35210

DECLASSIFIED
 Authority **NN 807020**
 By **SL** NARA Date **8-9-1**

資料 5-1
 (Sept 29, 1954)

POLITICS:

NAKASONE Yasuhiro: Rear Admiral, 1st Division, 1st Fleet

a. **Background:** (UNCLASSIFIED) Nakasone was the father of three children (one son, two daughters). NAKASONE Yasuhiro, 35, is 5 ft 10 ins tall and weighs 154 lbs. He graduated from Tokyo Imperial University in Mar 41, but some doubt remains as to whether he specialized in law or politics. For a few months following his graduation he worked as an official in a Tokyo prefectural office, but late in 1941 he was appointed a Lieutenant (J.G.) and assigned as a student to the Naval Paymaster School. He attained the rank of Lt commander but was placed on inactive reserve in Sep 45, following which he resumed his civil service career. From Oct 45 till Jan 47, when he resigned from civil service, NAKASONE held various posts in the Home Office, the Kanagawa-ken Police Section, and the Tokyo Metropolitan Police Board. (c)

b. **Rising Politician:** (UNCLASSIFIED) NAKASONE's name first appeared on the political scene in Apr 47, when he was campaigning for a seat in the House of Representatives as a member of the Democratic Party. By Sep 49 he had become a founder of the SEIUN JUKU (High Aspiration Academy), of which he is currently the president; he was also actively campaigning for the anti-Communist AIKOKU UNDO (Patriotic Movement). In 1950 he was the Japanese delegate to the International Congress (ICIA). The 9-month trip included brief stopovers in Switzerland (site of the Congress), West Germany, France, England, and the US. (c)

c. **Increasing Responsibilities:** (UNCLASSIFIED) After his return from abroad, NAKASONE variously served as a member of the Lower House's Budget and Personnel Committee as Vice-Chairman, Democratic Party Political Investigation Committee, and as Chief, Finance Department, Political Affairs Research Committee. The beginning of the year 1951 marked a change in NAKASONE's personal career. For, once an obscure junior politician involved in active minor movements, he rose to a higher level of prominence. Thus, in Jan 51, the press credited him with having submitted to SCAP headquarters a report on the views of the Japanese people.

(a) See pp. 26, 27

1. Confidential

CONFIDENTIAL

Authority NND 807020
By JH NARA Date 8-9-11

244 5-2

independence and the return of the Ryukyu Islands to Japan. His ^{political activities} ~~political activities~~ were supported by the various party posts he held: Vice Chairman, Policy Committee; Councilor, Propaganda and Information Committee; and member of three other committees and councils. In 1948 he made a speech in his home prefecture, Okinawa, opposing the continued use by US Security Forces of the islands and ~~around~~ ⁱⁿ the surrounding areas. (d) ^{He} ~~He~~ ^{was} ~~was~~ ^{born} ~~born~~ ⁱⁿ ~~in~~ ¹⁹⁰¹ ~~1901~~ ⁱⁿ ~~in~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{was} ~~was~~ ^{active} ~~active~~ ⁱⁿ ~~in~~ ^{the} ~~the~~ ^{movement} ~~movement~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{abolition} ~~abolition~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{US} ~~US~~ ^{occupation} ~~occupation~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{islands} ~~islands~~ ^{and} ~~and~~ ^{for} ~~for~~ ^{the} ~~the~~ ^{return} ~~return~~ ^{of} ~~of~~ ^{the} ~~the~~ ^{Ryukyu} ~~Ryukyu~~ ^{Islands} ~~Islands~~ ^{to} ~~to~~ ^{Japan} ~~Japan~~ ^{and}~~

